

二次避難所でのボランティア報告

1、目的

東京電力原発事故避難区域（立ち入り禁止区域）である浪江地区から、避難してきた家族のケアの手助けを依頼され、浪江町のこころの相談員と協力して子供と家族のこころとからだのケアをすることになった。

2、場所 福島市土湯町 二次避難所に指定されている旅館

3、対象者 避難所に入所している被災者の方

4、スタッフ 精神科医師、町で委嘱しているこころの相談員、 ヨガ療法士 今村、高萩

5、日時

5月16日 旅館和室食堂

浪江町母親、10歳男子、7歳女子

被災されている3名と、こころの相談員、今村、高萩とでヨガカウンセリングを1時間程した。被災者の方は自分の気持ちを受容されたことに満足したらしく、その後ヨガを40分行った。

*感想

母親・子供 楽しかったと、顔に笑みが見えた。母親はからだは熱くなったし、軽くなった。子供は楽しかった、今度いつ来るのと再来を求められた。

ヨガカウンセリングで子供に障がいがあり、ケアの専門医紹介が求められ精神科医師を紹介した。

5月23日

前回依頼を受けた親子2人に高萩が専門医を紹介し、親子で受診した。専門医より子供と親のストレス解消のため、ヨガのボランティアも有効と思われるので、継続を勧められた。

5月25日 ①土湯温泉避難所 旅館和室食堂

浪江町母親、10歳男子、7歳女子

待っていた様子。ニコニコしながらヨガを40分してからヨガカウンセリング。ヨガの内容は、学会指導内容。子供にはキッズヨガを

MIXさせ、気持ちが集中できるよう配慮した。その結果、気持ちがポジティブに変化するのを感じた。満足したところで、母親のカウンセリング。登校できない様子。他の被災者の様子等。

*感想

母親一からだがゆったりして気持ちがいい。子供の運動能力を見直せた。
子供一自分もやればできるという自信がわいた。楽しかった。

② 2箇所目の避難所 旅館和室 浪江町原発職員の家族（母）

予告してあったので、待っていてくれた。子供も参加予定であったが今日は登校できた。相談員の話では、良く泣くという話だったがこころの準備ができていたのか涙は見せなかったが、ヨーガカウンセリングが進んだら、こころの内側が見えるような話もされた。原発従業員は本人も家族も表裏一体の感情が混在しているのを感じた。その後この方はこころを沈めるため、ヨーガを40分継続的に行った。

*感想

からだが熱くなるのがわかった。気分がすっきりした。

*要望

継続的に相談や運動ができる組織があったら出席したいので紹介して欲しい。（紹介中）

5月26日

精神科医師より子供の学校での対応についてのアドバイスと、子供の治療経過について、報告をいただいた。

5月31日

こころの相談員から、学校での対応に変化があり子供が登校できる日数が増加したとの報告をいただいた。